

## < 別紙 >

### 1号機原子炉建屋 局所排風機運転後の影響評価

原子炉建屋内への人の立ち入り、作業が可能となるよう5月5日16時36分より局所排風機により環境改善を図っている。今後作業のために原子炉建屋の二重扉を開放する際に放射性物質が大気中へ放出された際の影響について、局所排風機を約45時間運転した後である5月7日15時15分時点で原子炉建屋内に存在する放射性物質濃度により再評価した。

また、換気量を抑えて徐々に放出することにより周辺環境への影響を緩和することとしたため、換気量、換気時間を当初の条件から変更した。

見直しされた放射性物質濃度、放出量以外の条件は報告徴収に対する報告（以下、5月3日報告）で想定した気象条件他の条件に基づき、地表面における濃度、線量を予測し、周辺監視区域外の空気中の濃度限度、年間の一般公衆の線量限度との比較やモニタリングポスト指示値への影響を評価し、5月3日報告における評価結果との比較検討を行った。

#### 1. 評価条件

1号機原子炉建屋内の放射性物質濃度、放出量（換気量、換気時間）以外の条件は、5月3日報告における条件と同一とする。（添付参照）

- (1) 放出時の気象条件
- (2) 放出高さ
- (3) 放出量
- (4) 1号機原子炉建屋内の放射性物質濃度
- (5) 評価モデル

#### 2. 濃度予測結果

敷地境界での最大濃度を求め、周辺監視区域外の空気中の濃度限度と比較した。予測結果は添付の通りであり、告示の周辺監視区域外の空気中の濃度限度を下回ることが確認された。

#### 3. 線量予測結果

線量の分布と最大値を予測した。予測結果は添付の通りであり、年間の一般公衆の線量限度 1mSv を下回ることが確認された。

#### 4. モニタリングポスト指示値との比較

外部被ばく線量の評価結果からモニタリングポスト指示値への影響を検討した。予測結果は添付の通りであり、現状のモニタリングポストの指示値である数十  $\mu\text{Sv/hr}$  が変動するレベルではないことが確認された。

#### 5. 5月3日報告における評価結果との比較検討

上記の各評価結果については、添付の通り5月3日報告における評価結果と比較して、線量については原子炉建屋内の放射性物質濃度に比例して低下している、濃度については放出率（換気量×濃度）に比例して低下しているものと評価された。

以上